

2021年11月28日(日) 陸奥新報 15面掲載

地震や津波を後世に

弘大 片岡教授
防災セミナー
原因や退避を提言

深 浦

弘前大学深浦エコサテラ
イトキャンパス2021年
度第1回公開講座(深浦町、
弘大など主催)が18日、同
町の町民文化ホールで開か
れ、弘前大学理工学研究
科の片岡俊一教授が「防災
セミナー」で地震と津波に
備える」と題して講演。1
983年5月に発生した日
本海中部地震を例に、地震
や津波が発生する原因や退
避に役立つ知識を紹介し

た。

弘大が有する知見を提供
する公開講座は今回、日本
海側における地震に関する
情報や知見が少ない中、日
本海中部地震を例に、地震
に対する記憶を風化させま
いと開いた。

片岡教授は地震・津波発
生の状況や原因、発生が少
ないとされる日本海側で被
害を伴う地震が江戸時代以
降に複数回起きていること
を解説。今後に向けて①被
害を引き起こす地震が起こ



講師 弘前大学理工学研究科 教授 片岡俊一

らないとは限らない②地震一所に移動するーと呼び掛け
が起きたら津波を考え、高たほか、「思い出す、伝承
する仕組みを
用意する」よ
う提言。「後
世に(地震の
記憶を)伝え
ることが大
事。写真を見
せただけでも
記憶に残るの
ではないか」
と語った。

(下山高秋)

日本海中部地
震について解
説し、今後に
向けて提言す
る片岡教授

※この画像は当該ページに限って
陸奥新報社が利用を許諾したものです。
[問合せ先]弘前大学理工学研究科
E-mail:r_koho@hirosaki-u.ac.jp